

11月度議員懇談会



## コロナ禍における金融市場と企業活動の動向について懇談



会議冒頭で挨拶する八木会頭

11月度議員懇談会を11月1日午前11時から福井商工会議所ビルで開催し、80名が出席した。

開会にあたり八木会頭は、「当社には現在5名の常勤取締役がおり、私を含め3名のプロパー、2名の外部招聘取締役が意識を共有している。市場環境は急に且つ予告なく変化していくものであり、その変化に迅速かつ柔軟に対応していくためには、起こりうる変化を専門的見識で様々な視点から分析し会社の方向性として定めていかなければならない」と新型コロナウイルス禍で激変する中で意識共有の重要性を自社の

例を用いて紹介。その上で、「商工会議所という組織も、福井をもっと良い地域にしていきたい」と考える同じ志を持った集まりである。今後ともより一層の能動的な参画をお願いしたい」と協力を要請した。

続いて、(株)三井住友銀行市場営業統括部エコノミストの鈴木浩史氏より「コロナ禍の金融市場と企業活動の動向」というテーマで卓話が行われた。

最初に鈴木氏は、世界各国における新型コロナウイルス新規感染者の推移を紹介。欧米地域がウィズコロナ戦略（感染は増えるがワクチン接種も増えるため、経済活動は止めない戦略）を取ったのに対し、アジア地域はゼロコロナ戦略（感染は増えるがワクチン接種が増えないため、経済活動を一部制限する戦略）を取らざるを得なかった現状を説明した。

また、「自動車積載用の半導体不足や一部業種における労働力供給不足、東南アジアのサプライチェーンの停止、物流・輸送コストの上昇など、新型コロナウイルスが蔓延したことで様々な分野に供給不足が発生した」と述べ、特に東南アジアのサプライチェーンの停止が欧米諸国や日本に大きな影響を与えたことも付け加えた。



コロナ禍が世界経済に及ぼした影響について説明する(株)三井住友銀行の鈴木浩史氏

一方、国内における家計状況については「旅行や宿泊などのサービス消費は壊滅的な打撃を受けたが、リベンジ需要の発生で来年にかけて回復するだろう」と予測。サービス消費で使われるはずのお金が貯蓄に回っている影響で国内の貯蓄率は上昇しており、この資金がリベンジ需要の原資になる可能性を示唆した。

最後に、今後の世界経済の見通しについては「新型コロナウイルス第6波の影響にもよるが、日本は中国、米国のあとを追う形で緩やかに景気回復の波に乗るだろう」と締めくくった。

## 事業開催結果

10.4

日本原子力発電(株)  
との公募研究説明会  
担当/まちづくり・産業振興課



日本原子力発電(株)が原子力施設内で抱える課題等の解決を目的に、地元企業や大学、研究機関の技術・アイデアを募集する事業の説明会を開催。委託・共同での研究活動を通して、応募者側の技術力の向上に繋がることも期待される。応募期間は来年1月7日(金)まで。

受講者：22名

会場：福井商工会議所ビル 国際ホール

10.4

本当は怖い！消費税・  
インボイス制度対策講習会  
担当/金融・会計相談課



令和5年10月より導入されるインボイス制度(適格請求書等保存方式)について、制度内容や導入に向けた対応などを解説。講師は「制度導入は2年後だが、取引先の課税・免税事業者の確認や経理業務変更の確認、登録申請などやることは多い」と早めの準備が必要と説いた。

受講者/69名(オンライン参加も含む)

会場/福井商工会議所ビル 会議室 AB

10.14・21

コロナ禍を乗り越えるための  
事業計画・市場分析セミナー  
担当/金融・会計相談課



事業計画の作成と市場・経営分析の手法を学ぶセミナーを開催。様々な分析手法や、事業計画作成のポイントを、補助金の採択事例を交えながら講師が解説。受講者はワークや意見交換を行いながら演習に取り組んだ。なお、11月22日、29日にも同様のセミナーを開催する。

受講者：39名

会場：福井商工会議所ビル 会議室 AB

10.6

総務部長・担当者交流会  
担当/会員サービス課



積極的な業務改善やオフィス改革を進める福井キャノン事務機(株)にて、働き方改革をテーマに開催。卓話、社内見学のほかグループ討議を行い、同社社員を交え自社の現状や問題点を議論した。終盤には、各グループの代表1名が全参加者に今後取り組むべき課題を発表した。

参加者：24名

卓話講師：福井キャノン事務機(株)

代表取締役 岩瀬 裕之 氏